

生涯学習情報

2021
8月

楽しい夏休みを!

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第332号

人権同和問題啓発強調月間

大島地区大会・スポーツ少年団交歓大会



「人権」は、すべての人間が生まれながらに持っている、人間が人間らしく生きていくための、誰からも侵害されない基本的な権利であり、また、個人として尊重され、安全で安心して生活を送るために欠くことのできない権利です。一人ひとりの人権が尊重され、人権という普遍的文化が息づく「共生社会」を実現するためには、私たち一人ひとりが、人権問題を「自分自身にも関わりのあること」として受け止め、身近な人権問題について関心を持つことが大切です。この機会に、ぜひ皆さんも身近なことから人権について考えてみましょう。

7月18日村民プールにて大島地区大会・大島地区スポーツ少年団交歓大会を実施しました。



大島地区大会に67名、スポーツ少年団大会に146名、計213名のスイマー達が日頃の練習の成果を披露しました。



本(ふん)の読(ゆ)む耳果てやねん?

8月に考えさせられること ～戦争と平和～

太平洋戦争について大和村に関係する記事を2つ紹介します。まず、『大和村誌』には、「大和村おとながあと関係者は合計206名、そのうち原爆死没者が9名だった。」「子どもの被害では、1948年(昭和23年)2月に、不発弾を遊戯用のコマのリングにしようとして金槌で叩いたところ、大爆発が起き、3名の小学生が犠牲となる悲惨な出来事もあった。」と記されています。不発弾については言葉を失いました。

もう一つは、『碑(いしぶみ)のある風景』(靑芳晴著)から紹介します。「疎開船の中には奄美近海で米軍潜水艦に沈められ、今なお海底に眠る疎開学童も多い。これらの船のうち741名の学童が船と運命を共にした『対馬丸』の事件は、今なお名音地区の人々に語り継がれている。昭和19年8月21日の夕刻、那覇港を後にした『対馬丸』を含む3隻は、22日夜には悪石島の沖にさしかかった。海の関所のように出没していた潜水艦から放たれた2発の魚雷が『対馬丸』に命中し、深夜の海は地獄と化した。15人の死体が名音の浜に漂着した。残っていた30人ちかくが現場で処理に当たった。内13人は13～15才の学童であった。」とあります。まずは、ご冥福をお祈りします。対馬丸の船中での子どもたちの様子は、迫り来る戦禍から逃れるために長崎へ疎開するという緊迫感よりも修学旅行にでも行くような楽しげな雰囲気だったようです。そして、寝静まった午後10時10分に魚雷が命中しました。船内におびただしく海水が流れ込み、船体が傾いていく中で脱出することに全力を尽くしました。命中してから13分後に対馬丸は大爆発を起こして沈没しました。その後は漂流しながら救出を待つことになりました。しかし、あいにく台風が襲来しており、雨、風、大波、さらに眠気、真水への渴望、錯覚との戦いだったようです。まさに生き地獄です。爆発により胴体と手や足がバラバラになった死体もあり、戸円、志戸勤、今里、さらには宇検村にも流着しました。

マスクと「熱中症」について

マスクは飛沫の拡散予防に有効で、「新しい生活様式」でも一人ひとりの基本的な感染対策として着用をお願いされています。しかし、着用した場合と着用していない場合を比べると、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど身体に負担がかかることがあります。したがって、**高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、マスクをはずすようにしましょう。**マスクを着用する場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけましょう。

文化財紹介(大和浜オキナワウラジロガシ)

戦後の伐採が進むなかにも、当該地は大和浜集落の神山として集落民が大切に守り伐採から逃れてきました。琉球列島の固有種で奄美大島が北限域とされています。オキナワウラジロガシ林の自然林として学術的価値が高く平成20年3月28日に国指定・天然記念物としてされました。



毎月19日は『育児の日』、第3土曜日は『青少年育成の日』、第3日曜日は『家庭の日』